



「こんにちは 市長です」

9月1日号

太田市役所壮年が軟式野球の県大会で初優勝した。快挙である。暑さに参りながら、ぶらぶらしていても暑いには変わりない。「応援に行こう」と県営敷島球場に出掛けた。カンカン照りの座席にほんの少し、わが方の応援団7、8人が陣取る。入場口で競技役員さんが検温、コロナ対策だという。2万席もある球場のほんの一部に7、8人である。規則とはいえマスクにソーシャルディスタンス、手ばたきだけで大声はご法度。「万が一のことがあったら責任問題になりますからね」主催者は気を使う。準決勝は快勝。翌日の決勝はお盆明けの猛暑の中。しかも、最も暑い午後2時からだという。身内が出る試合は面白い。行かねばなるまい、と心躍らせながら県営敷島へ。応援団は3人増えて10人。応援団は太田市役所壮年が全てであった。

ここは県営敷島じゃない、上毛新聞敷島球場になっている。命名権(ネーミングライツ)を企業に与えて対価を県の収入にする。当該企業が運営するなら納得であるが、職員の課長クラス一人分の給与程しか払ってもない。県民の多額の税金を使って建設し多額の税金で運営しているのに、上毛新聞敷島球場は年間523万円、正田醤油スタジアム群馬は733万円で半永久的に施設名を自己所有できるようだ。となると、年を重ねるごとに「県立」の意識は無くなっていくのではないかと危惧する。ベイシア文化ホールもベイシアのものか「県立」なのか紛らわしい。太田市は野球場も陸上競技場も、これから造る新体育館もみんな「太田」である。

肝心の太田市役所壮年は10-6で勝って関東大会を決めた。宇都宮まで応援に行く。行きませんか？アマチュアであっても身内のスポーツは実に楽しいですよ。(8/20記)